

東 だ よ り

武蔵野東学園広報 第61号

2023年 3月9日発行

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2-1-10

TEL 0422-52-2211 (代) FAX 0422-53-1090

<https://www.musashino-higashi.org>

求められる資質・能力

武蔵野東教育センター所長 計野 浩一郎

コロナ禍の中、保護者の皆様には学園の教育にご理解ご支援をいただき感謝しています。

このコロナウイルス感染症の蔓延は、世界がグローバル化していることをはっきりと認識した出来事でもありました。このグローバル化の中で、「多様性」や「ダイバーシティ」といった言葉が教育の中にも浸透してきていますが、学園は世の中で「多様性教育」とか「インクルーシブ教育」といった言葉が一般的でなかった時代から、混合教育を通して多様性を育成する教育に取り組んできました。

一般的に日本の子どもたちは、「根拠や理由を示しながら自分の考えを述べるのが苦手」「国際的にみて自己肯定感や主体性、社会参画の意識などが相対的に低い」ことが指摘されています。また、教員側の問題点としては、「諸外国の教員と比べて、子どもたちの主体的な学びを引き出す力が低い」「指導のなかでインターネットなどのICTを活用できていない」と言われています。さらに、社会全体として、「特別支援教育に必要な教員が十分に配置されていない」「外国籍など日本語指導が必要な子どもの一部が指導を受けられていない」などの課題も提起されています。これらの課題は、学園が常に教育を進めていく中でいつも心にとめながら、実践をしてきたことでもあります。

急激に変化する時代の中で、一人ひとりの子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。その変化を前向きに受け止め、次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育に必要なことは、文章の意味を正確に理解する読解力、自分で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新たな視点を見出すことができる力などが挙げられます。また、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越えてものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成などを図ることも学んでいく必要があります。さらに、子どもの頃から各教育段階に応じて体力の向上、健康の確保を図ることは、どのような時代であっても変わらず重要です。学園では、これらの資質・能力の育成を幼稚園年齢から一貫して教育課程の中に取り込んで教育を進めています。

先にも記しましたが、学園は混合教育を発展・進化させながら多様性を育成することに注力してきました。全ての子どもたちが安心して楽しく通える魅力ある環境であり続けることや、これまで以上に社会・福祉的な役割や子どもたちの居場所としての機能を担うことが求められていると思います。家庭の背景、発達の段階や特性、一人ひとりのキャリア形成など、子どもを取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、一人ひとりの可能性を伸ばしていくことをさらに進めていきます。ご協力をお願いいたします。

第58回発表会

幼稚園

発表会前日は本格的な雪が降り、当日の会館までの道のりが心配されましたが、子供たちの思いが春を呼び寄せたかのように、朝から穏やかな気候に恵まれて発表会当日を迎えることができました。

会場は、今年も武蔵野市民文化会館大ホールで、午前と午後に分けての開催でした。それぞれ、身体表現の部と音楽表現の部と二部に分けての発表で、子供たちは、ジャンピングボール等の移動教具に乗ったり、まねっこ体操やリズムカルな曲にあわせて踊ったり、歌ったり楽器を奏でたりしました。

会場から見守るご家族の温かいまなざしの中で、子供たちの真剣な表情と満面の笑顔を見せてくれて、キラキラした照明を浴びながら気持ちよさそうに舞台を楽しんでいる姿が、とても素敵でした。

今年の発表会のトピックスとして、これまで年長さんの演目で、男の子は体操、女の子はダンスを発表していましたが、今年は色をテーマにした踊りを事前に子供たちに紹介して、自分が踊りたい色(踊り)を一人一人がじっくり選んで、なりたいたい自分になっていく気持ちを大事に育みながら身体表現として取り組んできました。そして、それぞれの色(踊り)を集めて、年長オムニバス作品として発表をしました。

自分でこの曲を「踊りたい」という気持ちを大事に進めてきたことで、どの色(踊り)も子供たちの活き活きとした動きやポーズになって伝わってきたのがとても印象的でした。友達と一緒に練習を重ねていきながら、それぞれ相手の色(踊り)を理解し、この色(踊り)も踊ってみたいと、曲が流れると自然と身体が動き出し、年長さんの毎日は本当に楽しそうでした。

自分で決めるということは一方で勇気のいることですが、自分の気持ちとしっかり向き合って取り組んできたことが、舞台の上でも一人一人の表情や動きからも伝わってきて、客席から大きな拍手が送られました。

また、友達が決めたことも自然と尊重し、それぞれの考えを受け止め、お互いを認め合いながら、みんなで発表会を楽しんでいくことができました。今年も、発表会を通した豊かな経験が一人一人の大きな自信となり、本番に強いひびがしつ子に成長する貴重な機会となったことは、嬉しいかぎりです。



第58回発表会／年長「イロトリドリ」



3カメラで、ライブ配信！

<年長／なわとび大会>

年長さんが取り組んでいる縄跳びは、これまで発表会の舞台でも披露していましたが、今年は保護者も一緒に参加していただく“なわとび大会”を行いました。

クラス対抗で跳べる回数を競ったり、一人一人がチャレンジした技を披露合ったり、誰が長く跳べるか保護者も一緒になってチャレンジしたり、とても盛り上がりしました。

最後にお互いの頑張りに拍手を送り合い、親子一緒に素敵な笑顔が溢れる一時になりました。



<市報むさしの／武蔵野市 新春座談会>

～令和5年1月1日号に掲載！～

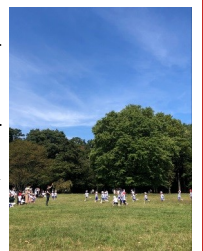
「未来ある子どもたちが希望を持ち健やかに暮らせるまちづくりに向けて」子ども・子育てをテーマに、加藤園長とその分野に携わる有識者の方が、松下武蔵野市長と座談会の特集記事が掲載されました。(掲載記事は武蔵野市ホームページからご覧いただけます)



秋から冬にかけて新型コロナウイルス感染症拡大がなかなか落ち着かない時期が続いていましたが、子供たちの育ちを大事に考え、感染症の予防をしながら工夫して行事に取り組みました。

○ 9月末／親子遠足

小金井公園で数年ぶりの親子遠足。子供たちだけでなく保護者の皆様も、交流する機会が限られた生活をしていたので、自然豊かな広い公園に出かけて、一緒にゲームをしたり、公園内を散歩して落ち葉や木の実を拾ったりして自然散策を楽しんだりしました。天候にも恵まれて爽やかな青空の下で、心地よい風をうけながら充実したひと時を過ごしました。また久しぶりに保護者同士の交流する機会にもなり会話も弾んだ一日になりました。



○ 12月中旬／もちつき

“もちつき”を子供たちに経験してほしいという願いから、感染症予防をしながら経験できることを工夫して行いました。薪ストーブで焚いてもち米を炊いて、もちができるまでの過程を知ったり、実際に餅をついている様子を近くで見て雰囲気を楽しんだりしました。薪が燃える



火の熱気や蒸かされた米の香り、ついた餅が冷めると感触が変わることなど、五感でいろいろなことに気付いたり、臼や杵や薪ストーブなどの道具に関心を持つ子供たちもいて、貴重な経験となりました。

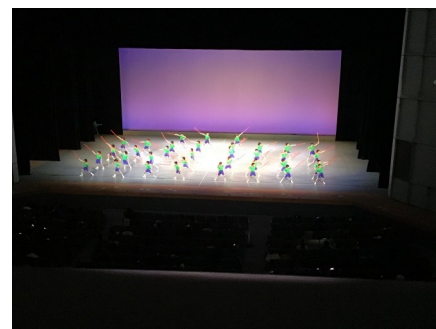
小 学 校

「第46回 小学校発表会」

新型コロナウイルスの流行により、学校行事の内容を変更したり、分散したりと工夫が必要な3年間でした。2022年度も、体育祭、学園祭と行事を終えてきましたが、2月16日には、第46回の発表会を府中の森芸術劇場の舞台をお借りして実施しました。今年度も小学校と中学校を午前午後に分けて行いました。

前日には舞台リハーサルがあり、今回は全学年で練習に臨むことができ、本番当日は、お天気も良く時間通りに開催されました。第Ⅰ部(体育、ダンスの部)と第Ⅱ部(音楽の部)で構成されており、舞台上では1学年ごとの演技・演奏が披露されました。

発表会は、1年間のまとめの行事として位置づけていますので、子どもたちもこれまでの頑張りや思いを最大限に発揮する場です。終了後にはどの子も、やりきった感の表情を見せ達成感を味わっているのだらうと思いました。当日の頑張りはもちろんですが、ここに至るまでの練習の過程も子どもたちの成長には欠かせないものです。たくさんの応援と拍手を頂いて、また一つ成長した子どもたち。2022年度のよい締めくくりとなりました。



4年AB組「リング」



6年AB組「オーケストラ」



1～3CDE組「バランス運動」

「スピーチコンテスト」

武蔵野東中学校をお手本に小学校でも始めたスピーチコンテスト。今年度は記念すべき第10回大会となりました。小学校は、2学年ずつ3つに分かれてテーマがあり、それに対してスピーチをします。

今年のテーマは、1,2年生の部「わたしのたからもの」、3,4年生の部「SDGs自分ができること」、5,6年生の部「武蔵野東小学校は、ノートを廃止するべきである」でした。タブレットを使ってプレゼンテーションシートも作り、なぜそう思うのかをしっかりと話していきます。これが論理的に文を組み立てていく基本となるのです。1,2年生は、宝物の写真を提示して、その特徴なども含め目に見える部分から順序立てて文を作り、3,4年生は、例えば「SDGs 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に着目し、節電を心がけるようにと具体例を示してプレゼンテーションをしていました。そして5,6年生は、ノートの廃止に賛否を唱え、その根拠を審査員の先生方に熱弁していました。ノートの良さ、タブレット端末の良さを様々な角度からとらえ、メリットデメリットをあげてわかりやすくスピーチをすることができました。



3,4年生の部

「書初め大会」

創業者である北原キヨの「美しい文字は一生の財産である」という理念に基づき、本校では、書き方の時間は「美しい文字」と位置づけ、毎年後期後半の始まりの日「書初め大会」を行っています。

書初めとは本来、年が明けて初めて毛筆で書や絵をかく行事であり、形を変えてはきましたが、江戸時代、そして昨今に至るまでめでたい風習として継承されてきました。しかし、現代においては「書く」ことそのものが減ってきており、書初め大会においては由来から学習することで「文字を書くこと」の大切さに気付いてもらえるようにしています。書初めには、昔の人が少しでも『綺麗な字を書くことができますように』といった思いが込められており、今後も「書初め大会」を実施することで、年の初めにあたって、心豊かに硯に向かい筆をとるという習わしを大切にしたいと思っています。



中 学 校

探究科「全国学芸サイエンスコンクール」入賞！

1・2年生の正課授業である「探究科」では教科学習の枠をこえ、「知りたい」と思うことを「問いにして、オリジナルの「答え」を構築していく活動を行っています。校内だけでなく外部での評価を受けるため、今年度も3年生が昨年(2年次)提出した探究科の作品の中から優れたものを選抜し、学校代表として今年度の旺文社主催 第66回「全国学芸サイエンスコンクール」に応募しました。歴史ある

このコンクールは、今回も9万点を超える応募があり、社会科自由研究部門(中学生の部)の1,863点の応募作から見事に銀賞と入選に選ばれました。本校は4年連続の上位入賞となります。

探究科のまとめとして毎年学園祭で、1年生は探究の基礎を学ぶゼミの取り組みの成果を、また2年生は約1年かけて自分の関心のあるテーマについて取り組んだ個人探究の成果を発表しています。2年生のテーマは多岐にわたりますが、近年は自分の探究がどのように社会に役立っていくのかといった視点からテーマを設定する生徒が増えています。

【社会科自由研究部門】

《旺文社赤尾好夫記念賞 銀賞》3年 内藤 万鈴 さん
「イヤワームを起こしやすい曲の作り方」

《旺文社赤尾好夫記念賞 入選》3年 中平 野恵 さん
「色彩計画を利用し様々な建物にあう色を考える」



学園祭での発表の様子(2年生)

第36回毎日カップ
「体力づくりコンテスト」全国4位！

第36回毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト(毎日新聞社主催)で、全国4,125校の中、全国4位となる「日本学校体育研究連合会賞」を受賞しました。この審査については対象が3年生となり、新体力テストの数値や学校での独自の取り組みが総合的に評価されます。一次、二次の審査を経て、現地審査を行われる対象の12校に本校が選ばれ、視察では3年生の授業の取り組みなどを見学、最終審査でこの受賞が決定されました。

新体力テストにおいては、各個人の総合評価は5段階に分かれますが、男子は上位2段階に93.4%、女子は87.9%が入るなど、全国でも総合評価が非常に高いことがよくわかります。

昨年12月に毎日新聞社本社で行われた表彰式には、本校のスポーツ推進委員会の生徒が代表として出席をしました。



2022年度 高校入試 合格状況

15歳という心身ともに成長した時期に、将来を見通し、自分の可能性を追究する受験の機会は、生徒を大きく成長させます。本校の3年間には、学習のみならず行事の企画や運営、部活動での活躍、探究科や生命科での学びからの人間的な成長があります。それらが自らの進路選択に結びつき、また実際の受験を乗り越える力にもなっています。近年の入試に取り入れられている自己アピール面接や小論文においても、諸活動からの成長の成果が実を結んでいます。

受験に向けては、進路指導をAB組のカリキュラムの一環に位置づけ、校内指導だけで十分に対応する態勢を整えています。今年も将来の目標に照らしてそれぞれが合格を勝ち取り、進路を決めました。

〔国立〕筑波大学附属駒場、お茶の水女子大学附属(2名)、東京工業高等専門学校

〔都立〕日比谷(2名)、西(2名)、国立(4名)、立川、青山、国分寺、武蔵野北

〔私立〕慶應義塾女子、早大高等学院(3名)、早大本庄高等学院、青山学院高等部、国際基督教大学高校(4名)、渋谷教育学園幕張、市川、明治大学中野八王子(2名)、立教新座、中央大学附属、中央大学杉並(2名)、法政大学高校 他

高等専修学校

第37回合唱コンクール

「今年こそは」と合唱コンクールの開催を目指し準備しました。練習はコロナ対策を講じながら工夫し行わなくてはならず、いつも全員が同じ方向に向かって歌うなど制約が多いため、友達との音の調整も苦勞しました。12月7日本番当日、会場は三鷹市芸術文化センターにて実施することができました。

昨年度、一昨年度とこの2年間は、合唱コンクールは開催されず、コロナにより閉塞感を感じる学校生活に笑顔をとの思いから、音楽祭として、学校内で楽しいイベントを企画し実施いたしました。音楽祭はカラオケあり、ダンスあり、器楽演奏ありと大盛況に終わり、楽しい思い出を作ることができました。

一方で、合唱コンクールは、その練習期間に大きな意味があります。真剣な取り組みだからこそ、涙あり、笑いあり、時に口論ありと、他には代えがたい経験を積むことができ、大きな成長のきっかけとなります。

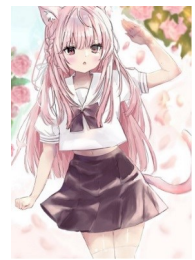
会場の客席の都合上保護者の参観こそお受けすることができませんでした。しかし、全ての生徒にとって初めての芸術文化センターの舞台でしたが、どのクラスの歌声もとても素晴らしく、練習の苦勞が報われた時間となりました。ここからまた、新しい伝統を築いていって欲しいものです。



合唱コンクール（優勝クラス 3年B組）

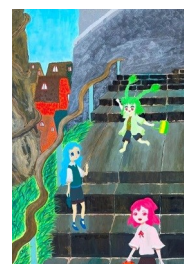
2022年度「目指せ〇〇〇」チャレンジ

昨年度に引き続き、本校の魅力発信の一環として、「目指せ〇〇〇」イベント・コンテストへの挑戦！として、専門教科を中心に積極的な取り組みを行っています。今年度も「目指せコンクール入賞！」として、チャレンジした三つの取り組みをご紹介します。



「サンタマリア学園」
2年脇菜日留さん

- 絵画コース 2年 脇 菜日留さん 作品名「サンタマリア学園」
第34回全日本高校デザイン・イラスト展(ADEC主催) 東日本地区賞受賞
- 絵画コース 3年 平野 沙晃さん 作品名「朝イチの登校日」
ゆめのデザイン大賞2022(パソナ令和財団主催) 入賞
- 情報ビジネスコース 2年 渡邊 花帆さん 作品名「Save The Planet!」
第13回文書デザインコンテスト(日本情報処理検定協会主催) 佳作



「朝イチの登校日」
3年平野沙晃さん



「Save The Planet!」
2年渡邊花帆さん

上記以外にも、調理・製菓コースでコンテストに参加し最終審査にまでノミネートされた生徒や、陶芸コースでも4名の生徒が全国やきもの甲子園に出品するなど、惜しくも入賞を逃しましたが活躍している生徒が多数出てきています。また、引き続き紹介できるよう、様々なイベントやコンテストに挑戦してまいります。

成年年齢の引き下げ

2022年4月1日より、民法改正により成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。高等専修学校の3年生は、在学中に成年となります。18歳になると、保険や商品購入の際のローン契約等を実際に結ぶことができるようになりました。3学年の生徒を対象に、明治安田生命から講師をお迎えし、出前「金融教育の授業」を行いました。折に触れて、社会の仕組みや卒業生の社会生活での体験など、日々のホームルームや様々な授業の中で話していますが、今回の授業を通し、責任を負うことなど大切なことをわかりやすく伺うことができました。



金融教育の出前授業



友愛会三役選挙

また、公職選挙法の改正に伴い、18歳になった生徒は、在学中でも実際の選挙の投票所に出向き、投票活動を行う生徒も見られるようになりました。学校では、主権者教育の一環として、友愛会三役の選挙の際は、武蔵野市から選挙管理委員会の方をお招きし、選挙のルールを学ぶ機会を作っています。併せて、実際の選挙に使用する投票箱をお借りし、投票体験も兼ねて投票も行います。社会に出る前に知っておくべき様々な準備の一つひとつ着実に進めています。

ダンス教室発表会（2月4日）

ダンス教室では、毎年この時期に家族や友だちに一年間の積み重ねの成果を披露する発表会を開催しています。今回は小学校2年生から6年生までの子どもたちが「地球たんけんたい」と「LOVE」の二作品を披露しました。地球探検隊は、ヨガの動作を取り入れたダンスです。ヨガは、体の柔軟性や不要な緊張を緩める体ほぐしの目的で日頃から重きを置いてきました。苦手な柔軟体操やヨガのポーズも、音楽や衣装を着けて行くと何倍も楽しく行えました。「LOVE」は、アップテンポなダンスです。練習では、曲の速さに合わせることに苦労していましたが、経験を積んだ上級生たちがチームをよくリードし見事に踊りきることができました。応援に来た家族からたくさん拍手をもらい、自信を得たことでしょう。



息の合った決めポーズ

保護者・支援者向けセミナー（2月8日）

今回は、日本相続知財センターの鹿内幸四朗先生をお招きして「専門用語を使わない障がいのある子の親なき後の『お金』の話」というテーマで講演をしていただきました。ご自身の経験をふまえ、30年後の将来を見据えて障がいのある子どものためにどのような準備をしたらよいのか、子どものために『お金』はどのくらい残したらよいのか、どのようにすべきかなどについて詳しくお話しいただきました。また、成年後見制度や相続についても、図や表などを交えてわかりやすく解説くださいました。参加者からは「今、すべき準備が具体的に理解できました。」「子どもが15才になったので、親として我が子のために動き始める時期なのだということが分かり、本当に貴重な学びとなりました。」などの感想が寄せられました。

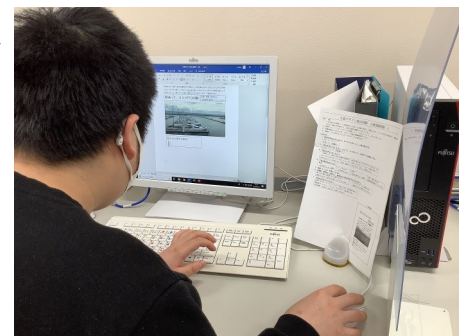
2023年度の保護者・支援者向けセミナーは、4月にホームページにてご案内いたしますので、ご希望の方はぜひお申し込みください。



軽妙な語りで、あっという間の2時間でした

情報処理検定試験（2月26日）

教育センターのコンピュータ教室を受講する子どもたちを対象に、日本情報処理検定協会が主催する情報処理検定試験を実施しました。検定内容は、「文章入力スピード認定」や「文書デザイン検定」といった、それぞれが得意とする分野と習熟度に合った等級を選択することができます。10分間で50文字打てれば合格できる6級から目指すことができるので、今年は42名が受験しました。子どもたちの中には、10分間で1000文字以上も入力できる者や、問われたとおりの資料を作成する「文章デザイン検定」で、1級に合格する実力者がいます。1級は、一般の大人にとっても難関とされています。どの子どもたちもこの一年の積み重ねの成果を発揮し、モチベーションをもって試験に臨んでいました。



文書デザイン3級合格を目指して奮闘中

教育センター オリジナル学習ドリル

武蔵野東教育センターの教育実践から生まれたプリント教材を、オリジナル学習ドリルとして発刊しています。基礎的な計算や時刻の読み取り、文章読解の仕方を学べるものなど、子どもたちがつまずきやすい課題を分野ごとにまとめました。文字や挿絵の見やすさ、スモールステップで取り組みやすい問題数になっているなど、子どもたちの特性を踏まえた工夫がなされているところが市販品とは違います。問題集だけでなく、簡単な学び方のガイドがついているので保護者にもたいへん好評です。現在、計算ドリル、時計ドリル、文章読解ドリルなどが発刊されていますが、これからも新しいものが続々と登場する予定です。



これからどんどん増やしていきます

学園総合

寄付金申込者お名前 (2022年9月16日～2023年2月24日)

石井久美子様、田中法臣様、関前コミュニティ協議会様、東京西北ロータリークラブ様、
幼稚園後援会様、小学校後援会様、中学校後援会様、中学校友愛会様、高等専修学校後援会様、
高等専修学校友愛会様、匿名3名様

武蔵野東学園をご支援くださる皆様へ

武蔵野東学園では、「混合教育」・「生活療法」の更なる充実のために皆様からのご篤志を随時受け賜っております。学園の実践する様々な教育活動、教育機器・設備ならびに施設の向上や奨学金制度の拡充などに活用させていただきます。ご支援のほどお願い申し上げます。

使途を指定してのご寄付について

学園の教育振興のための一般寄付のほか、幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校、教育センター、
山梨友愛寮・チロル学園や奨学金制度へのご寄付など、使途を指定したご寄付も受け賜ります。

税法上の優遇措置について

・個人名義でのご寄付の場合

「税額控除」・「所得控除」という2種類の寄付金控除を確定申告時にお選びいただくことが可能です。

・法人名義でのご寄付の場合

「受配者指定寄付金」または「特定公益増進法人に対する寄付金」とどちらかの制度をご利用いただくことで、
寄付金額を当該事業年度の損金に算入することができます。

①「受配者指定寄付金」としてのご寄付 → 寄付金全額を損金算入できます。

②「特定公益増進法人に対する寄付金」としてのご寄付 → 一定限度額まで損金算入できます。

詳しくは事務局企画広報室(TEL:0422-52-2211)までお問い合わせください。

学校法人武蔵野東学園 奨学金制度について

2014年4月に発足した「学校法人武蔵野東学園奨学金制度」。この奨学金は入学後に学資の支弁が困難となった場合、選考を通じ認定されれば年額240,000円を納付金から減額する形で交付するものです。本制度は学資支弁が困難な園児・児童・生徒の就学を援助し、将来において社会に有為なる人材を育成することを目的としています。奨学金の種別は返済不要な給付型で奨学生の認定は原則的に毎年度3名としています。

その手順としては、各園校の教職員が検討をして候補者を学園に推薦。学園は毎年度1月に奨学生選考委員会を開いて翌年度の奨学生を認定します(緊急の対応が必要な場合は別に認定することも可能です)。

この奨学金は同窓会・後援会OB会からのご寄付や連合後援会賛助会員の協賛金を原資としています。

なお、本制度は最低6ヶ月間在籍している園児・児童・生徒を対象としています。